初版発行 ： 1993年3月10日
最終改訂 ： 2008年8月5日
MSDS-VCA-010J

日本酢ビ・ポバール株式会社
JAPAN VAM & POVAL CO.,LTD.

製品安全データシート （MSDS）

1：化学物質等及び会社情報

物質名 モノクロロ酢酸ビニル

会社名 日本酢ビ・ポバール株式会社 （担当部門 ： 品質保証グループ）

住所 〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町 3-11-1

連絡先

（代表）総務ｸﾞﾙｰﾌﾟ	電話番号 072-245-1131	FAX 番号	072-245-8144
営業ｸﾞﾙｰﾌﾟ	電話番号 072-245-1133	FAX 番号	072-245-8144
（生産担当）新製品ｸﾞﾙｰﾌﾟ	電話番号 072-245-1135	FAX 番号	072-247-1691
品証ｸﾞﾙｰﾌﾟ	電話番号 072-244-2173	FAX 番号	072-247-1691
（夜間・休日）製造課	電話番号 072-244-2171	FAX 番号	072-244-6115

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途は、合成樹脂変性モノマー、樹脂の共重合用モノマー。また、本製品は一般工業用向けに製造されたもので、医薬品等の特別な取扱いをする場合には、新たに用途用法に適した安全対策を講じた上でご使用願います。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外	健康有害性	急性毒性（経口）	区分 3
	可燃性／引火性ガス	分類対象外		急性毒性（経皮）	分類できない
	可燃性／引火性エアゾール	分類対象外		急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	支燃性／酸化性ガス類	分類対象外		急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	高圧ガス	分類対象外		急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない
	引火性液体	区分 3		皮膚腐食性／刺激性	区分 3
	可燃性固体	分類対象外		眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分1

			呼吸器感作性	分類できない
自己反応性物質および混合物	分類できない		皮膚感作性	分類できない
自然発火性液体	区分外		生殖細胞変異原性	分類できない
自然発火性固体	分類対象外		発がん性	分類できない
自己発熱性物質および混合物	分類できない		生殖毒性	区分2
水と接触して可燃性／引火性ガスを発生する物質および混合物	区分外		標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1
酸化性液体	分類対象外		標的臓器／全身毒性(反復暴露)	区分2
酸化性固体	分類対象外		吸引性呼吸器有害性	分類できない
有機過酸化物	分類対象外	環境有害性	水生環境有害性(急性)	区分1
金属腐食性物質	分類できない		水生環境有害性(慢性)	分類できない

ラベル要素(絵表示またはシンボル)

注意喚起語 ; **危険**

危険有害性情報 ; 引火性の高い液体及び蒸気
飲み込むと有害
軽度の皮膚刺激
重篤な眼の損傷
生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
臓器の障害 (神経系、心臓、腎臓、肝臓、呼吸器)
長期にわたるまたは反復ばく露による臓器の障害のおそれ(呼吸器、心臓、肝臓)
水生生物に非常に強い毒性

注意書き : 【安全対策】
使用前に取扱説明書(本MSDS)を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱、火花、裸火のような着火源から離して保管及び取扱うこと。(禁煙)
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
火花を発生しない工具を使用すること。

必要に応じて個人用保護具や換気装置を使用し暴露を避けること。
換気が十分でない場合には、適切な呼吸用保護具を使用すること。
適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
容器を密閉しておくこと。
環境への放出を避けること。
【救急措置】
飲み込んだ場合に限り、量によっては死に至るおそれがある。決してそのまま吐き出させてはならない。口を良くすすぎ、水または牛乳を飲ませる。左腹を下にして(頭を下にして)楽な姿勢で横になる。すぐに医師の診断手当てを受けること。
吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚または毛に付着した場合、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、または取り除くこと。皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。医師の診断手当てを受けること。
取扱い後はよく手を洗うこと。
眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合ははずすこと。その後も洗浄を続け、医師の診断手当てを受けること。

(医師への特別注意事項)

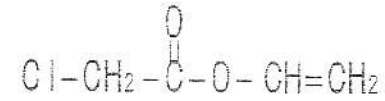
胃穿孔と誤嚥に注意しながら、チューブを使って胃の内容物を抜き取る(胃内で加水分解し、腐食性のモノクロロ酢酸を生じている可能性があるため、抜き取った液には触れないよう注意する)。チューブが使えない場合は、濃い重曹水(または重曹のスラリー)を飲ませ、胃の内容物を中和してから吐き出させる。

【保管】
容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。

【廃棄】
内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

3:組成、成分情報

単一物質/混合物の別	単一の化学物質
化学名	2-クロロ酢酸ビニル
別名	モノクロロ酢酸ビニル、クロロ酢酸ビニル

成分または含有量	モノクロロ酢酸ビニル	98.0%以上
化学式		
CAS番号	2549-51-1	
化審法番号	2-3152	
労安法整理番号	2-(6)-1011	
その他	PRTR指定物質	非該当
	労安法通知対象物質	非該当
	毒劇物指定物質	非該当

4:応急措置

吸入した場合

直ちに被災者を新鮮な空気の場所へ移動させる。呼吸をしていない時は人工呼吸を施す。呼吸が困難なときは酸素吸入を行なう。体を保温して安静を保ち、できる限り早く医師の診察を受ける。

皮膚に付着した場合

皮膚接触した場合は、直ちに大量の清浄な真水で洗い流すと共に、汚染された衣服や靴を速やかに脱ぎ捨てる。付着した部分は石鹸を用いて大量の水で洗浄する。

≪酸との混合物など、皮膚腐食性のある混合溶液、または加水分解生成物のモノクロロ酢酸が多量に含まれていると推測される液に接触した場合には、侵された皮膚からの吸収によって危険性が増す可能性がある。直ちに付着部分を重曹水で中和しながら洗浄する。中和作業を行ないながら、汚染された衣服や靴を速やかに脱ぎ捨て、できる限り早く医師の診察を受ける。 中和作業は重曹水を常に変えながら4時間以上、医師の診察を待つ間も、常に重曹水での洗浄を続けること。(なお、これは加水分解によって生じるモノクロロ酢酸に対する処置である。) なお、目の洗浄に重曹水を使ってはならない。視力低下の恐れがある。目の洗浄には清浄な真水を使うこと。≫

目に入った場合

直ちに清浄な真水で眼を洗浄する。洗浄を続けながら眼科に搬送し、できる限り早く医師の手当てを受ける。(目の洗浄の際には、重曹水を使ってはならない。視力低下の恐れがある。)

飲み込んだ場合

大量に飲み込み処置が遅れると、死に至るおそれがある。決してそのまま吐き出させてはならない。口を良くすすぎ、水または牛乳を飲ませる。左腹を下にして(胃を下にして)楽な姿勢で横になる。直ちに病院に搬送し、できる限り早く医師の診察を受ける。

医師への特別注意事項

胃穿孔と誤嚥に注意しながら、チューブを使って胃の内容物を抜き取る(胃内で加水分解し、腐食性のモノクロロ酢酸を生じている可能性があるため、抜き取った液には触れないよう注意する)。チューブが使えない場合は、濃い重曹水(または重曹のスラリー)を飲ませ、胃の内容物を中和してから吐き出させる。

緊急用常備品

中和洗浄用として、重曹水(約 5%水溶液)を入れたバケツを常備することが望ましい。 病院へ搬送する際は、このMSDSを携帯すること。

5:火災時の措置

消火剤	適切なもの: 粉末消火剤、もしくは泡消火剤、二酸化炭素。 適切でないもの: 棒状注水 (飛び散ることで危険性が増すことがある)
特定の危険有害性	燃焼時、塩化水素などの塩素系ガスの発生が起こりうる。 火災時、加熱の影響で重合反応、または分解が起こりうる。密閉された容器は激しく破裂することがある。
消火を行なう者の保護	燃焼時に発生するガスの吸入を避けるため、エアラインマスクなどの呼吸保護具を着用すること。

6:漏出時の措置

人体に対する注意事項	目、皮膚、呼吸器などに対して刺激性があるため、保護具を着用する。
環境に対する注意事項	大量に流出した場合、加水分解生成物のモノクロロ酢酸の毒性によって環境への影響が現れる場合がある。
回収	保護具を着用し、風上より回収作業を行なう。重曹をまいて中和を行なった後、大量の水で洗い流す。洗浄廃水は堰きとめて回収し、活性汚泥処理装置で少しずつ処理する。

7:取扱い及び保管上の注意

取扱い	保護眼鏡、呼吸保護具、保護手袋、を着用すること。 適切な換気設備のあるところで取扱うこと。 火気厳禁。引火性がある。 高温条件下に長時間置かないこと。 空気を使っての圧送はしてはならない。
保管	重合性・加水分解性モノマーのため、直射日光・風雨の当たる場所を避け、密栓して暗所に保存。 酸化性物質、有機過酸化物などと接近して保管してはならない。 金属に対して腐食性がある。金属容器に保存する場合は、容器材質にSUS316L以上の耐食性材料を用いること。

8:暴露防止及び保護措置

設備対策	大量に使用する場合は全体換気設備、実験などで使用する場合は、局所換気設備があること。	
許容濃度	日本産業衛生学会	未設定
	ACGIH	未設定
保護具	呼吸器の保護具:	吸収缶式呼吸保護具、エアラインマスク、等
	手の保護具:	不浸透性保護手袋(ネオプレンゴムまたは塩ビ製)
	目の保護具:	側板付き安全眼鏡、ゴーグル等
	皮膚及び身体の保護具:	安全靴着用

（皮製の安全靴は、一度製品が染み込んだものは使用してはならない。）

9:物理的及び化学的性質

物理的状態	液体	
色	無色	
におい	刺激臭	
pH	現在のところ情報なし	
沸点	136℃/760mmHg、44～46℃/2mmHg	
融点	-34℃	
引火点	50.5℃(タグ密閉式)	
発火点	345℃	
爆発特性	爆発限界	上限 : 19.8%
		下限 : 2.5%
蒸気圧	7.7hPa …5.8mmHg (25℃)	
密度	1.194 (20℃)	
溶解性	1.14% 液／水 (20℃)	
動粘度	0.8980cSt (20℃)	

10:安定性及び反応性

安定性	密閉、常温、重合禁止剤の存在下で保存している限り、数年間保管してもほとんど変化はなく、基本的に安定である。	
特定条件下での危険な反応	ビニル基を持っているため、過酸化物・熱・光等で重合する。	
	水の存在下、または吸湿すると定量的に加水分解し、モノクロロ酢酸とアセトアルデヒドを生じる。	
避けるべき条件	高温、多湿、直射日光	
避けるべき材料	有機過酸化物、酸化性物質、水、強酸、強アルカリ	
危険有害な分解生成物	燃焼時	塩化水素ガス
	分解時	モノクロロ酢酸、アセトアルデヒド

11:有害性情報

急性毒性	経口毒性 LD50	300～500mg/kg bodyweight (*1)
	経皮毒性 LD50	2000mg 以上/kg bodyweight (*2)
局所効果	皮膚刺激性	PII 値 4.0 (Moderate Irritant)
	皮膚腐食性	皮膚腐食性なし (*3)
	目刺激性	催涙性あり。蒸気は目を激しく刺激する。

	目腐食性	腐食性があるかもしれない。 (粘膜上で容易に加水分解し、モノクロロ酢酸を生じるため。)
特定の影響	変異原性	変異原性は認められない (*4)

12:環境影響情報

排出後の挙動

加水分解されて、モノクロロ酢酸とアセトアルデヒドを生じる。モノクロロ酢酸による環境への影響が考えられる。

13:廃棄上の注意

廃棄する際は高温で焼却処分する。

焼却できない廃水は、回収して活性汚泥処理装置で少しずつ処理する。下水に流してはならない。

14:輸送上の注意

陸上輸送	DOT49CFR172.101	Label Code 6.1.3 (Keep away from Food)
海上輸送	IMDGコード	Class 6.1, 容器等級 2
航空輸送	IATA-DGR	Class 6.1, Packing Group Ⅱ
国連分類	Class 6.1	
国連番号	2589	

15:適用法令

消防法	危険物第4類第2石油類、非水溶性液体
廃棄物処理法	規制物質

16:その他の情報

記載内容は、現時点で入手できる最新の情報、データ、および日本酢ビ・ポバール株式会社の経験上の知見に基づいて作成しており、新しい知見によって改訂されることがあります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたもので、特殊な取扱いの場合は、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご使用ください。記載内容は情報提供であり、保証するものではありません。

文献

*1 Safepharm Laboratories Limited(U.K) (P-N 1160/009)
*2 Safepharm Laboratories Limited(U.K) (P-N 1160/010)
*3 Safepharm Laboratories Limited(U.K) (P-N 1160/011)

*4 Safepharm Laboratories Limited(U.K) (P-N 1180/015) 2001 年 8 月 31 日

改訂履歴

年月日	MSDS No.	内容
1993 年 3 月 10 日		初版発行
2000 年 1 月 5 日	VCA-002J	様式変更：独自様式→日化協様式
2000 年 1 月 19 日	VCA-003J	修正：加水分解してモノクロロ酢酸を生じる旨の記述
2000 年 10 月 20 日	VCA-004J	追加：毒性試験データ(*1～3)、取扱い・応急処置の内容 修正：金属容器に関する情報
2001 年 8 月 24 日	VCA-005J	修正：会社電話番号(市外局番)
2001 年 9 月 7 日	VCA-006J	様式変更：日化協様式→JIS Z 7250 様式 追加：変異原性試験データ(*4)、引火点小数点以下の数値および測定方法、沸点 修正：飲みこんだ場合の姿勢
2002 年 5 月 1 日	VCA-007J	会社合併により社名変更（信越酢酸ビニル→日本酢ビ・ポバール）
2005 年 4 月 20 日	VCA-008J	連絡先追加（緊急時、夜間・休日）
2006 年 12 月 12 日	VCA-009J	住所：西区追加
2008 年 8 月 5 日	VCA-010J	GHS 対応に改訂